KJS

京都社会学年報

第 30 号
2022年 12月

落合恵美子 教授退職記念号

30 京都大学文学部社会学研究室

［編集規定］

1．本誌は京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室の機関誌として、年１回発行する。

2．１）本誌の編集は、「京都社会学年報」編集委員会の責任のもとに行われる。

２）編集委員会は本研究室の教員および大学院生代表者により構成される。

３）編集委員会に関するその他の細目は別に定める。

3．本誌には、研究論文のほかに、書評論文、資料等の欄を設ける。

4．１）本誌の投稿者は、原則として京都大学大学院文学研究科行動文化学系社会学研究室に所属する専任および非常勤の教員、ならびに大学院生・研修員、研究生とする。

２）投稿に関する細目は別に定める。

5．論文等は、未公刊のものに限る。

6．論文等は、編集委員会によって審査され、その掲載について検討される。

7．本誌に掲載された原稿の著作権は、社会学研究室に帰属するものとする。著作者が本誌に掲載された文章を再録しようとする場合は、事前に本研究室に届けでる。

8．１）論文等の原稿は、所定の執筆要項に準拠したものに限る。

２）執筆要項は別に定める。

落合恵美子教授ご退職記念号によせて

太郎丸　博

2023 年 3 月末をもって社会学専修の落合恵美子先生が、京都大学文学研究科をご退職されることになりました。この『京都社会学年報』第 30 号は、落合先生のご退職を記念し感謝の意を表するための特集号として刊行します。落合先生は多くの学生を指導してこられましたが、この『年報』が教員による査読システムをとるようになって以来、落合先生は多くの論文を審査され、その過程で多くの論文のクォリティが改善されてきました。今号では院生、修了生をはじめ、研究室の同僚・後輩が先生に感謝の気持をこめて寄稿しています。

落合先生は 1980 年に東京大学文学部を卒業され、1987 年には文学研究科博士課程を中途退学されました。その後、兵庫県家庭問題研究所、同志社女子大学、国際日本文化研究センターを経て、2003 年からは本学の助教授、2004 年からは教授となり、今日にいたっています。2008-2013 年には、グローバル COE「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」リーダー、その後は、アジア親密圏 / 公共圏教育研究センターのセンター長と、アジア研究教育ユニットのユニット長を長く務められ、京都大学の発展に多大な貢献をなされてきました。

落合先生は、家族社会学を中心としつつも、ジェンダー論、家族史、人口学、福祉社会学など、多くの領域を縦横無尽に横断する、学際的な志向の持ち主です。落合先生の語り口は平易ですが、その内実のクォリティは高く、それらが高く評価されていることは、巻末に掲載の受賞歴や学会役員歴にもあらわれています。また、落合先生の研究の学術的水準が非常に高いのはもちろんのことですが、その成果は象牙の塔の中にとどまらず、政策にも影響を与えていることは、審議会などの豊富な委員歴からもうかがい知ることができます。

落合先生のご活躍は国内に留まることはなく、国際的にも高い評価を得てこられました。海外でのフィールドワークはもちろん、海外での講演や授業の経験も豊富で、1993-1994 年にケンブリッジ大学・客員研究員、2006 年に社会科学高等研究院 (フランス)・客員研究員、2010 年にストックホルム大学・客員教授、2014-2016 に社会科学高等研究院 (フラ

ンス)・ブレーズ・パスカル国際研究職、2021-2023 年に南京大学客員教授などを歴任されてきました。京都大学で落合先生が受け入れた海外からの研究者は数知れず、毎年、多くの研究者が落合先生のもとに滞在して、研鑽を積みました。また、若手の社会学者の国際ワークショップである Next Generation's Workshop の立ち上げと運営、京都大学、国立台湾大学、ソウル大学の学部生を中心としたワークショップである、東アジアワークショップの立ち上げと運営も、落合先生の学問に対する大きな貢献と言えるでしょう。さらに、グローバル COE の研究成果を中心にまとめた The Intimate and the Public Spheres in Asian and Global Perspectives (Brill) という学術書のシリーズ編者を務められ、さらに Sage から Asian Families and Intimacies（全 4 巻、筆頭編者）が現在刊行中です。

このようなずば抜けた学識は教育面においても発揮され、理論・実証の両面から、多くの学生・研究者をサポートしてこられました。落合先生を慕って国内外から毎年多くの留学生が社会学専修の大学院を受験してきました。学部生からの人気も高く、毎年、多くの学生が落合先生から卒論の指導を受けることを希望し、先生の指導のもとに卒業論文を書いてきました。

落合先生がご退職されることは、私たち社会学専修の教職員や学生全員にとってたいへん残念なことですが、これまで先生が築いてこられた未来のための礎と、数々のご恩に対して、心から感謝の意をこめて、この特集号を先生に捧げます。

落合 恵美子 教授

京都社会学年報

第30号
京都大学文学部社会学研究室　2022年12月

目　次

〈論　　文〉

国際労働市場と高額化する斡旋料：
　技能実習制度における価格管理の失敗　安里　和晃　1

Qualitative Data Collection and Analysis:
　Some Methodological Reflections
Stéphane HEIM　27

フランスのミドルクラス・ムスリムの階級的な差異化に関する一考察
山下　泰幸　51

非西洋社会における近代社会思想受容の知識構造
　――東アジア社会科学でのウェーバー理解を例に――
吉　　琛佳　75

〈書評論文〉

欲望のレジーム
　――東京における若いゲイ男性、メディア、男性性――　林　　正浩　97
Thomas Baudinette,
Regimes of Desire: Young Gay Men, Media, and Masculinity in Tokyo
（University of Michigan Press, 2021）

マン・メイド・ウーマン
　――クロスドレッシングの弁証法――　川上　　桜　105
Ciara Cremin,
Man-Made Woman:
The Dialectics of Cross-Dressing
（Pluto Press, 2017）

移民の国　日本
　――エスノナショナリズムの社会における移動と帰属――　韓　　在賢　113
Gracia Liu-Farrer,
Immigrant Japan:
Mobility and Belonging in an Ethno-nationalist Society
（Cornell University Press, 2020）

改革者たち
　――児童労働と福祉国家の起源――　相澤　亨祐　121
Elisabeth Anderson,
Agents of Reform: Child Labor and the Origins of the Welfare State
（Princeton University Press, 2021）

〈論文翻訳〉

1989 年の討論
社会の概念は理論的に時代遅れである（下）　鈴木　赳生　訳　129

＊　＊　＊

落合　恵美子　教授　略歴・著作目録　173

〈執筆者紹介〉（掲載順）

インターネットが利用可能な方は、社会学研究室ホームページをご参照ください。
アドレスは https://www.socio.kyoto-u.ac.jp/ です。

安里　和晃
准教授

移民研究、アジア研究、社会福祉論

ステファン　ハイム
准教授

経済社会学、産業社会学、組織論

山下　泰幸
博士後期課程 3 年次

ポストコロニアル研究・レイシズム研究・地域研究（フランス）
現在の研究テーマ：フランスのムスリムによるイスラモフォビアへの回避／抵抗の実践
E-mail: yamashita.socio1111@gmail.com

吉　琛佳
博士後期課程 3 年次

社会学理論、社会学史、知識社会学
現在の研究テーマ：東アジアでの社会理論受容と社会の近代化
E-mail: kichichenjia@yahoo.co.jp

林　正浩
博士後期課程 1 年次

ジェンダー論、メディア研究、歴史社会学
現在の研究テーマ：同性愛男性の身体と男性性、ゲイ・コミュニティの役割
E-mail: lin.zhenghao.77x@st.kyoto-u.ac.jp

川上　桜
修士課程 1 年次

アイデンティティとファッション、ジェンダー論
現在の研究テーマ：クロスドレッシングとしてのロリータファッション
E-mail: sakura29mameco@gmail.com

韓　在賢
修士課程 1 年次
国籍とアイデンティティ、移民研究
現在の研究テーマ：日本における移民 2 世の帰属と政治意識
E-mail: han.jaehyun.44m@st.kyoto-u.ac.jp

相澤　亨祐
博士課程 1 年次
家族社会学、児童福祉
現在の研究テーマ：日本における「児童虐待」の社会問題化過程の分析
E-mail: aizawa.ryosuke.46v@st.kyoto-u.ac.jp

鈴木　赳生
同志社大学 研究開発推進機構 学術研究員・人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 研究員
差異、社会理論
現在の研究テーマ：多文化研究、脱植民地化の運動・思想
E-mail: taksuzuk@mail.doshisha.ac.jp

編集後記

▼落合恵美子先生の退官記念号となる今号には、先生方の論文のほか、学生による計７本の論文･書評論文･翻訳論文が掲載されました。過去２年間、コロナウィルス感染症予防のために研究室の活動のほとんどが制限され、院生間のコミュニケーション不足が研究上の不利益をもたらすこともあったようです。今年度は対面での活動の多くが再開し、それにともなって研究室内の交流も増えつつあります。京都社会学年報には、投稿者の研究成果報告の場としてはもちろんですが、院生コメンテーターなどを通じた研究室内のコミュニケーションを促すインフラとしての機能も期待されると考えています。編集委員としても、研究室全体の活性化に繋がるような運営に努めてまいりますので、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。最後になりますが、今号の完成にいたるまでご支援いただきました皆様のご協力とご理解に厚く御礼申し上げます。

第30号編集委員　D1　相澤亨祐　D3　劉恒宇　M2　佐藤慧　M1　韓在賢　M1　李子叶

▼『京都社会学年報』第30号をお届けします。今号は年度末で退職される落合恵美子先生の退職記念号です。今回、落合先生の業績を整理していて、日本の社会学者として、これほどグローバルにネットワークを築かれご活躍され、女性研究者としての道に先鞭をつけられた方は他にいないのではないかと、改めてその比類なき存在感に圧倒されました。落合先生が京大に着任された20年前、私はちょうど修士課程の学生で、その後、折々に触れていただいた温かいご指導のお言葉を、今でもよく思い出します。松田素二先生に引き続き、自分がご指導を受けた先生が退職されるのは、大変寂しく、不安な気持ちになります。落合先生が日本の社会学において、また本専修において、果たされた大きな役割を思うと、自分はその足元にもまったく及びませんが、少しでもそれに近づけるよう努力しなければと、身の引き締まる思いです。落合先生には、これからも本専修へのご指導ご協力をいただきますよう、引き続きよろしくお願いいたします。またみなさまも、顔触れは変わりましても、今後も本専修へのサポートをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

丸山里美

〈査読委員〉
落合恵美子　田中紀行　太郎丸博　安里和晃　丸山里美　ステファン・ハイム

京都社会学年報　第30号

2022年12月25日発行

編　集　京都社会学年報編集委員会
（編集代表　太郎丸 博）
発　行　京都大学大学院文学研究科社会学研究室
〒606-8501　京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2758　FAX 075-753-2836
製　作　株式会社 田中プリント
〒600-8047　京都市下京区松原通麩屋町東入
TEL 075-343-0006　FAX 075-341-4476

この本はそのまま読むことが困難な方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「拡大写本」等の読書代替物への媒体変換を行うことは自由です。製作の後は発行人へご連絡をください。

《Editorial Regulations》

1. This journal is an annual publication of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University, Kyoto, Japan.
2. i) This jounal is edited by the Editorial Board of the Kyoto Journal of Sociology.
   ii) The Board consists of the professors and postgraduates of the Sociology Department.
   iii) Detailes of the regulations of the Board are specially provided.
3. Contributions to this journal may be in the form of articles, review essays, etc.
4. i) Contributors are generally limited to professors and postgraduates of the Department of Sociology, Graduate School of Letters, Kyoto University.
   ii) Guidelines for contributors are specially provided.
5. Contributions are limited to previously unpublished articles.
6. Review of contributions is carried out by the Editorial Board.
7. The copyright for each article included in KJS belongs to the Department of Sociology. In cases any article published in KJS is reproduced elsewhere, the author should notify the Department in writing.
8. i) Manuscripts submitted for review must follow the writing guidelines for contributors.
   ii) The writing guidelines for contributors are specially provided.

KJS

Kyoto Journal of Sociology

No.30 December 2022

ARTICLES

International labor market and high placement fees:
Failure of price control in respect of TITP migrants in Japan — Wako ASATO

Qualitative Data Collection and Analysis:
Some Methodological Reflections — Stéphane HEIM

A Study on Class Distinction by a French Middle Class Muslim — Yasuyuki YAMASHITA

Reception of Modern Social Thought in Non-Western Societies:
Influence of Max Weber in East Asia as an Example — Chenjia JI

REVIEW ESSAYS

Thomas Baudinette,
Regimes of Desire:
Young Gay Men, Media, and Masculinity in Tokyo
(University of Michigan Press, 2021) — Zhenghao LIN

Ciara Cremin,
Man-Made Woman:
The Dialectics of Cross-Dressing
(Pluto Press, 2017) — Sakura KAWAKAMI

Gracia Liu-Farrer,
Immigrant Japan:
Mobility and Belonging in an Ethno-nationalist Society
(Cornell University Press, 2020) — Jaehyun HAN

Elisabeth Anderson,
Agents of Reform:
Child Labor and the Origins of the Welfare State
(Princeton University Press, 2021) — Ryosuke AIZAWA

ARTICLE TRANSLATION

Tim Ingold ed.
"1989 Debate: The Concept of Society Is Theoretically Obsolete,"
Key Debates in Anthropology
(Routledge, 45-80, 1996) — Takeo SUZUKI

Department of Sociology, Faculty of Letters,
Kyoto University, Kyoto,606-8501,Japan

30